

地域支援センターしせい

第4号

相馬看護専門学校臨地実習を終えて

今年度も相馬看護専門学校の臨地実習として、5月11日と9月14日の二回に分けて計38名の実習生が来校し実習を行いました。事前レポートには、特別支援学校へのイメージや、実習への不安とともに、障がいのある児童生徒とのかかわり方を学んで、医療の場面で生かしたいという意欲が書かれていました。実習では、講話、学校見学、授業参加を行いました。講話は「福島県における特別支援教育」というテーマのもと、特別支援教育について基本的なことから現在の課題まで幅広い内容でした。また、養護教諭からは「特別支援学校における健康管理」というテーマで、本校の事例をベースとして特別支援学校の児童生徒の健康管理についての話がありました。校内の見学では、医療的ケアで配置している看護師がいる学級を見てもらうことで、教育の分野にも看護師の仕事の場があることを知ることができたのではないかと思います。

こんな感想がありました～学級担任との懇談から～

子ども達が受け身ではなく、子ども達の自立のために子ども達が自分から活動に取り組んでいけるような環境づくり、かかわりをしていたのが印象的だった。

子ども達とかかわる中で、その子自身ではなく障がい名で児童生徒を理解しようとしていた自分に気付いた。今後、看護師となったらその人の人となりを見て患者さんに寄り添っていききたい。



実習に来る前は、特別支援学校の子ども達とコミュニケーションをとるのは難しいことだと思っていたが、どんどん話しかけて来てくれて嬉しかった。

かかわってみて初めて分かったことがたくさんあった。今回の実習で学んだことを医療の場面で患者さんや障がいのある子どもとかかわる際に生かしていきたい。

はじめは少し緊張した面持ちで教室に入っていった実習生達でしたが、学習活動をともにしていく中で、笑顔で子ども達とかかわる姿がありました。1日という短い時間でしたが、実際のかかわりを通して、障がいのある児童生徒への理解を深め、看護師として勤務した時どようにかかわっていくのか、どのような配慮が必要なのかを考えるきっかけになったようでした。相馬看護学校の卒業生の多くが地元就職するため、本校の児童生徒をはじめ、医療の現場でも今回の経験を生かしてほしいと思います。